

令和 3 年度

運営に関する計画

(中間まとめ)

大阪市立新東淀中学校

○ 学校教育目標

自律した個人として自己を確立させ、他者と協力しこれからの社会を担うことをめざさせ、心豊かに力強く生き抜く力を育む

目 次

学 校 運 営 の 中 期 目 標	1
中期目標の達成に向けた年度目標	2
最重要目標 子どもが安心して成長できる 安 全 な 社 会	4
最重要目標 心豊かに力強く生き抜き未来を 切り拓くための学力・体力の向 上	11
そ の 他	20

大阪市立新東淀中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1.学校運営の中期目標

現状と課題

- 生徒の問題行動は減り、一定の落ち着きのもと学習を進めているが、学校生活に馴染めず不登校となっている生徒の割合が高い。小学校時よりの課題を引きずる生徒もいるが、中学校で不登校にならないような生徒の集団育成を推進する。
- 令和2年度大阪府1・2年生チャレンジテストの分析より、各学年とも国語では「書く」分野、数学では「関数」分野で課題があるという結果がある。そのような結果とともに、子どもたちは、基礎学力の定着不足から学習から逃避し、問題行動に走る可能性を持つ状況に変わりはない。そのため授業で生徒がわかると感じる授業を創造し基礎学力の定着を図るとともに、家庭学習習慣を身につけさせ、自ら学ぶ姿勢を育成する。
- 過去の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から、男子も女子も、毎授業で「ランニング、ラジオ体操、トレーニング、ストレッチ」などを取り入れるなどの授業工夫の結果、大阪市平均や全国平均を上回る結果がみられる種目もあり、徐々にではあるが成果が表れてきている。しかしながら、大阪市平均を大きく下回る結果となっている種目については今後の大きな課題であると考えている。
課題解決に向けては、引き続き、授業づくりの工夫を推進するとともに、部活動の振興と充実に加えて、新たに生徒が関心を持って自ら取り組みくなるようなトレーニング機器や施設等の整備を行い、生徒が運動やスポーツに親しむ環境や機会を確保する取組を進め、生徒の体力・運動能力の向上を図る。
- 本校は、学校が校区外にあるというハンディーを抱えるが、目指す子ども像として「地域を愛し、地域に頼られる生徒」をあげている。各地域での行事や地域防災訓練等に、各生徒が地域の一員であるという自覚を持ち参加し、より一層「学校・家庭・地域」の連携を深める取り組みを推進する。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和3年度の不登校の在籍比率を大阪市の目標3.7%より低くする。
- 令和3年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。
- 令和3年度の校内調査における「学級・学年でいじめがおきない雰囲気がある。」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。
- 令和3年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を65%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和3年度末の校内調査において、「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。
- 令和3年度の全国学力・学習状況調査における「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の項目について、「1時間より少ない。全くしない。」と答える生徒の割合を40%以下にする。
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を「男子45、女子45」以上にする。

【その他】

- 2月の小学6年生アンケートで、「小中連携の取り組みで4月から始まる中学校生活の参考になりましたか?」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。
- 令和3年度末の校内調査において、「先生は、教え方を工夫している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 令和3年度末の校内調査において、「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。
- 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 令和3年度末の校内調査において、「学校生活は楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。
- 令和3年度の不登校の在籍比率を前年度より低くする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和3年度のチャレンジテストにおける対府平均比を、同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 令和3年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上減少させる。
- 令和3年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上増加させる。
- 令和3年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、過去の記録から課題となる全国平均を下回る種目について記録を向上させる。

学校園の年度目標

- 令和3年度末の校内調査において、「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を75%以上にする。
- 令和3年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の項目について、「1時間より少ない。全くしない」と答える生徒の割合を35%未満にする。
- 令和3年度末の校内調査において、「自分の健康に関心をもっている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。

【その他】

○2月の小学6年生アンケートで、「小中連携の取り組みで4月から始まる中学校生活の参考になりましたか?」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

○令和3年度末の校内調査において、「先生は、教え方を工夫している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。

大阪市立新東淀中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年 度 目 標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標（小・中学校）（再掲）	
○令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
○令和3年度末の校内調査において、「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。	B
○令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。	
○令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。	
学校の年度目標（再掲）	
○令和3年度末の校内調査において、「学校生活は楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。	B
○令和3年度の不登校の在籍比率を前年度より低くする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
# 取組内容① 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】	
[生活指導]	
社会生活を送るうえで普遍的な規範の一つである「時間を守る」「言葉づかいをていねいにする」の2項目の指導を徹底し、集団生活をよりよく過ごす為にはルールを守ることが必要という自覚を持たせ、自律心を育成する。 集団生活のルール（校則・心得）や生徒手帳にある生徒会申し合わせ事項等を年度当初に確認し、校内外で安全で安心して生活できる集団作りに努める。	
取組内容 指導が繰り返し続く生徒には、本人の背景や状況を把握し、組織的に対応することで状況の改善を図る。 不登校の生徒に対して、担任の家庭訪問だけに頼るのでなく、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等を活用し、校内の対策委員会で対応を検討する。単に「登校させる」ことだけを問題解決の目標にするのではなく、将来の社会的自立に向けた視点で、柔軟で弾力のある関わりと状況に応じた多様な支援に努める。 昨年度より始まった「大阪市こどもサポートネット」を、今年度も学校を挙げて連携・活用していく。	B
指標 校内アンケートにおける「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上とする。 学期初めの生徒集会・学年集会等で、集団の状況を踏まえ目標を確認する。また、トラブルが生じた時に、学級・学年全体指導を通してルールの確認を行う。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容	[防災・減災教育の推進] 東淀川区役所、東淀川消防署、東淀川社会福祉協議会、菅原・新庄・下新庄の地域防災リーダーと連携しての「防災研修」、学校全体での「避難訓練」、各学年の状況に応じた「防災学習」を実施し、防災・減災について考えさせるなかで、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と、支援者となる視点から安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。	B
指標	防災に関する授業を年間2時間以上実施する。	
取組内容	[安全教育の推進] 大阪府警本部、東淀川警察署と連携し、「非行防止防犯教室」や「交通安全教室」を開催し、ラインやSNSによるトラブル・インターネット上のいじめや、夜間外出での犯罪被害の防止に向けた取り組みを推進し、学校生活を含め生活全般において子どもの規範意識の醸成を図る。交通の危険について理解を深め、安全な歩行や自転車の利用を指導する。 また、薬物乱用防止教育講師による「薬物乱用防止教室」を開催し、生徒たちが薬物乱用の実態や心身への影響、依存症、疾病との関連や社会への影響などについて考え、正しく理解する機会を設ける。	B
指標	校内アンケートにおける「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合を前年度以上とする。	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】		
取組内容	[道徳教育の推進] 「特別の教科道徳」の年間の取り組みを通して、生命の尊厳やルールの遵守などの道徳的価値を見出させる。外部講師による講話、文化発表会・芸術鑑賞など学校の教育活動全体を通じて、情操教育の推進すると共に、学校の教育活動全体を通じて多角的・多面的に物事を考える力を育成する。	B
指標	道徳アンケートを行い授業の現状と生徒の理解度を把握し、今後の教育活動の推進に活かす。また、校内アンケートにおける「学校には命の大切さやルールについて守ろうとする雰囲気がある。」に対しての肯定的な割合を前年度以上とする。	
取組内容	[キャリア教育の充実] 社会的・職業的自立に向け、自他の理解能力等の諸能力や生徒の勤労観・職業観を育てるため、企業や団体の協力による職業講話や職場体験学習などを実施することによりキャリア教育を推進する。	B
指標	校内アンケートにおける「先生と将来の進路や生き方について話ができる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上とする。	
取組内容	[人権を尊重する教育の推進] 自他の人権を尊重できる態度を育てるため、生徒同士や生徒と教師間のコミュニケーションを大切にした教育活動を行う。また、人権作文、人権ポスター等を掲示し生徒の興味や関心を高める。	B
指標	校内アンケートにおける「いじめがおきない学校づくりに積極的に取り組んでいる。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容	[インクルーシブ教育システムの充実と推進] 変わりゆく特別支援教育を理解し、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び支援を行う。インクルーシブ教育システム構築のための基本的な環境を整える。	B
指標	特別支援教育にかかる生徒一人一人の教育的ニーズに対して、専門家による指導助言を年1回以上受け、適切な指導及び支援を行う。	
取組内容	[芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ機会の創出] 文化芸術は、他者に共感する心を通じて、人と人が相互に理解し、尊重し合う土壤を提供するものであり、人間が協働し、共生する社会の基盤となることから、社会的財産であると言える。そこで「芸術鑑賞」や「学校行事・地域行事での吹奏楽部の演奏・演技」を通じて、生徒それぞれが、自らが文化芸術の担い手であることを認識する機会を創設する。	B
指標	「芸術鑑賞」や「文化発表会」の事後アンケートでの満足度を80%以上とする。	
取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】		
取組内容	[保護者や地域住民に開かれた学校運営] 年3回実施する土曜授業を感染症拡大予防対策を講じたうえで可能な限り、保護者や地域住民に公開するとともに、学校だよりや学校HPを通じ情報発信を行い開かれた学校にする。 また、地域行事へ吹奏楽部を中心に生徒の積極的な参加を推進し、地域との連携を深める。	B
指標	学校だよりを月1回発行し、学校HPを年250回以上更新する。 本校アンケートで「学校が開かれている」と肯定的に回答した保護者の割合を前年度以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 [生活指導]

「時間を守る」指導については、ほとんどの生徒が25分の予鈴までに教室へ入れるようになっている。が、本鈴を大幅に過ぎて遅刻してくる生徒が常態化している。遅刻した生徒に対しての指導・言葉かけを増やしていくことが必要である。「言葉使いをていねいにする」指導については年度当初の集会や日々の活動、生徒との関わりの中で実践しているが、これからも意識し継続して取り組んでいく必要がある。様々な問題行動に対しても、学年生指を中心にきめ細かく個別に指導を行っているが、今後も粘り強く指導し、理解をさせていく必要がある。

不登校の生徒に対して、学校（教員）のみで対応するだけではなく、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーや子育て支援室など外部機関と連携し、将来の社会的自立に向けて、柔軟で弾力的な関わりと状況に応じた多様な支援を行っている。本年度から開始した「大阪市こどもサポートネット」についても、学校を挙げて連携・活用に取り組んでいる。

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 [防災・減災教育の推進]

4月に消防署と連携し、火災を想定した避難訓練を実施した。避難経路の確認や、訓練後の消防署の職員による災害発生時の行動についての講話などを通して自分の命を守るために主体的に行動する態度と防災、減災に対する意識を持たせることができた。11月には1年生で地域の防災リーダーや区役所などと連携した防災学習を行う予定である。

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 [安全教育の推進]

新型コロナウィルス感染症の関係で、東淀川警察の方に来校していただくことはできなったが、生徒指導主事が連携し、非行防止や生活指導全般の話を各学年の集会で行った。
その他の取り組みについては、状況を見ながら2学期、3学期に実施する予定にしている。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [道徳教育の推進]

大阪市立中学校教育研究会の道徳部から出ている、道徳の指導案を各学年に3冊配布し、大阪市独自の気づき1気づき2の方法での授業ができる環境を整備している。また、10月25日に行われる道徳研修会などを通して、教師の授業力向上を図り、年末にある研究授業につなげていきたい。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [キャリア教育の充実]

2年職場体験学習を11月に実施する。その事前準備として、2学期に入って「職場体験学習ノート」や「自己アピールカード」や「IDカード」を作成する取り組みを推進し、勤労観や職業観を学ぶための準備をすすめている。

3年はよりよい進路選択に向けて進路学習を進めている。学年だよりにおいて進路情報を適宜発信しているほか、保護者進路説明会にあわせて年間2回生徒向け進路説明会を実施している。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [人権を尊重する教育の推進]

自他の人権を尊重できる態度を育てるため、生徒同士や生徒と教師間のコミュニケーションを大切にした教育活動を行っている。また、人権問題への生徒の興味や関心を高めるために人権作文、人権ポスター等の掲示も継続していく。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [インクルーシブ教育システムの充実と推進]

教育委員会作業療法士による巡回相談が10/22に予定されている。1年生の生徒を対象に指導助言を受け、適切な指導及び支援ができるようにする。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ機会の創出]

【吹奏楽】一般生徒の吹奏楽に親しむ機会として、今年度も文化発表会での演奏をすることができた。それ以外にも校内での発表機会を模索していく。

【芸術鑑賞】11月には芸術鑑賞を予定している。本年度は世界的なジャグリングパフォーマンスと、人権についての講演会を鑑賞する予定である。世界的で活躍するパフォーマンスの演技を間近で見ることで芸術に触れる心を養うとともに、「朝鮮人」としてウトロに生まれ壯絶ないじめを経験してきたパフォーマーの話を聞くことで、人権について考える機会を持つことを目標にしている。芸術鑑賞の事後アンケートで芸術を満足度80%以上を目指す。

【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 [保護者や地域住民に開かれた学校運営]

- ・年3回の土曜授業は今後も感染状況を見ながら開催の判断をしていく。
- ・学校だよりの定期的な発行（月1回）を予定通り実施できている。
- ・学校HPの更新は【10月18日現在：195回更新、昨年10月14日：243回更新】となり、昨年度より減少している。
- ・学校HPのアクセス数は【10月18日現在：41309件、昨年10月14日：43966件】となっており、昨年度より減少しているが、昨年より行事等が実施できていないことも要因となってアクセス数が減少していると考えられる。今後もアクセス数が増加するよう、引き続き魅力ある発信ができるよう努めていく。

年 度 末 ハ の 改 善 点

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 [生活指導]

年度後半も、引き続き「時間を守る」指導を徹底していき、朝の8時25分の予鈴で教室に入っておくという状況を継続させたい。一部、遅刻が常態化している生徒に対しては、個別の指導も合わせて行っていく。
また、「言葉遣い」についても丁寧にするよう、生徒同士や教職員が生徒と関わる場合などを通して、指導を継続したい。

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 [防災・減災教育の推進]

防災学習を行えていない学年もあるので、各学年の状況に応じた防災学習を実施する。またそれとともに、様々な場面で防災、減災の意識を持つよう話をしていくことで、災害に対し主体的に命を守る行動をとれるよう指導していく。

【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 [安全教育の推進]

情報モラル教育を実施する予定だが、常日頃からSNSの使い方については指導していく必要がある。何気なく使っていることが、周りにどういう影響を与えていているか等を伝え、安易な気持ちで使うようなことがないように指導する。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [道徳教育の推進]

道徳の研修会や、研究授業を通して、アンケートの意見を参考に来年度以降の授業に活かしていくように、道徳人権教育委員会で振り返りをする。また、評価に関しても確認して、ミスの無いようにする。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [キャリア教育の充実]

コロナ禍のなか、2年職場体験学習、3年進路学習とも学年中心に取り組みをすすめていただいており、現在のところスムーズに進んでいる。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [人権を尊重する教育の推進]

登校指導や休み時間などの教師生徒間のコミュニケーションを大切にすることで安心して学校生活を送れる環境づくりに努めている。しかし時折、生徒間で他者の人権を守っていない言葉が発されることがある。人権学習を通して他者の人権を尊重できるきっかけにしたい。

年 度 末 へ の 改 善 点

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [インクルーシブ教育システムの充実と推進]

巡回相談で得られた助言をもとに、生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた指導・支援ができるように教育活動を進めていく。また、個別の教育支援計画を保護者とともに確認し次年度へ引き継ぐ。

【施策2 道徳心・社会性の育成】 [芸術鑑賞・吹奏楽に親しむ機会の創出]

去年より、新型コロナウィルスの対応により、芸術を鑑賞する機会が多々失われてきたが、本年度は感染予防に気を使いながら文化発表会では合唱・演劇・吹奏楽の鑑賞を行うことができた。文化発表会後の事後アンケートでも90%以上の生徒が、文化発表会を鑑賞して「大変良かった」と回答している。来年度も感染予防をしながら可能な限り芸術・吹奏楽に親しむ行事を実施していく。

【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 [保護者や地域住民に開かれた学校運営]

HPの更新回数を現時点では昨年度より増加することができなかった。新型コロナウィルス感染症対策の影響で行事等が制限され、情報の発信機会が少なかったことが原因の一端であるが、今後もコロナ禍におけるHPの役割は重要で、更新回数のみならず、できる限りの生徒の様子や本校の状況を保護者・地域に発信できるよう工夫していく。また発信する場合は、個人情報やその他法令等を尊守し、細心の注意を払って発信していきたい。

大阪市立新東淀中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）（再掲）	
○令和3年度のチャレンジテストにおける対府平均比を、同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
○令和3年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上減少させる。	
○令和3年度のチャレンジテストにおける得点が府の平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上増加させる。	B
○令和3年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。	
○令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、過去の記録から課題となる全国平均を下回る種目について記録を向上させる。	
学校園の年度目標（再掲）	
○令和3年度末の校内調査において、「授業内容が分かる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。	
○令和2年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の項目について、「1時間より少ない。全くしない」と答える生徒の割合を40%未満にする。	B
○令和2年度末の校内調査において、「自分の健康に関心をもっている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】	
取組内容 [国語] 国語に対する関心・意欲を高めるため、ICTや視聴覚教材を活用する。また、授業での漢字の練習を通じて、基礎学力の定着・向上を図る。 さらに理解度に応じてワークブックやプリントなどを用いて読解力を高めるとともに、ペアワークやグループワークを適宜行い主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	B
指標 週1回以上の授業で漢字の学習を行ない、単元ごとにICTを活用した授業を行う。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】		
[社会]		
取組内容	社会的事象を多角的な視点から主体的に思考する力や豊かな表現力を身に付けさせる。	B
指標	定期テスト等において社会的事象への思考・判断・表現に関する問題を必ず出題する。ワークシートや課題等で調べたことや考えたことを表現させるとともに、長期休業中の調べ学習などの課題提出の割合を90%以上にすることを目標とする。	
[数学]		
取組内容	毎回の授業で復習問題を行う。（基礎基本の定着）個別や到達度別の補習・質問教室を行う。（個々の状況に応じた学力向上）	B
指標	自分の力でできたと実感できる生徒を90%以上にする。（アンケート実施）	
[理科]		
取組内容	興味・関心をもって授業に取り組むために、実験・観察を学期に3回以上行う。また、科学的な思考・判断・表現ができるようにレポート作成を行う機会を年間3回は行うようとする。	B
指標	実験プリントの完成・提出を90%以上、長期休業中の自由研究等の課題提出の割合を90%以上にすることを目標とする。	
[音楽]		
取組内容	様々な音楽を通して、音楽知識の定着、歌唱や楽器演奏の表現力向上を目指すと共に音楽への興味・関心をひきたて、音楽を愛好する心や豊かな感性を育む。	B
指標	各学年とも1・2学期に1回ずつ歌唱テストを、楽器演奏やリズムに関する実技テストを学期に1回以上行う。音楽の授業を楽しく学べたと答える生徒を80%以上にする。	
[美術]		
取組内容	授業開始後5分間でスケッチを行い、画力の向上を目指す。また、アイディアやひらめきなどの感性を豊かにし、個性を生かし育てる。	B
指標	美術の創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにし、一人でも多くの生徒が授業を通して美術の楽しさを学べる割合を85%にする。	
[技術家庭]		
取組内容	基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、社会の変化に対応しながら、実践的・体験的な学習活動を通して指導を行っていく。	B
指標	反復基礎練習、作業確認が多く実施できるように、ICTなども活用する実習計画をたて、90%の課題達成や技能習得を目標とする。また安全に実習が行えるよう機器・工具・道具類の整備を定期的に行う。教科内での評価や研修内容などを共有し指導に生かす。	
[英語]		
取組内容	新学習指導要領に基づいて、外国語によるコミュニケーションの見方、考え方を学ぶ取り組みを実践的に行い、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えることができる能力を育てる。	B
指標	ICT機器等を積極的に活用し、C-NETとの連携を図りながら生徒が実践的に英語に触れる機会を多く作る。また、生徒の習熟度別に応じて指導を行うためにC-NETと教案を作成しT.T.での授業を充実させる。また、生徒のアンケートにおける「習熟度別授業によって英語が以前より分かるようになった」に対し肯定的に回答する生徒の割合を80%以上とする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】		
取組内容	[学力向上を図るために学習支援の充実] 生徒一人ひとりの基礎学力の定着に向け、学びサポーターを年844時間配置するとともに、教育委員会より配信されている学習教材のデータを活用して生徒への学習支援の充実を図る。	B
指標	校内アンケートにおける「授業内容が分かる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上とする。	
取組内容	[図書室を活用した言語力の定着と向上] 生徒が本に触れ、読書に親しむ態度を養い、日常生活における読書活動を活発に行ってみたいと思えるような図書館、生徒が主体的に資料や情報を収集・選択できる図書館を目指して、図書館の室内環境・機器を整備するとともに、図書室だよりの発行などの広報活動を積極的に行って利用生徒数の増加を図る。	B
指標	図書館の利用生徒数を前年の10%増を目標とする。	
取組内容	[放課後等を活用した自主学習支援] 学校元気アップ地域本部事業と連携して、「放課後自主学習室の開放」「長期休業中自主学習室の開放」等を行う。また、小中連携の一環として、「親子漢字検定」「親子英語検定」を実施して、生徒の自主学習を支援する。	B
指標	土曜日自主学習会の実施、放課後及び長期休業日の自主学習室開放を年150日以上、参加生徒数は延べ1,500人以上を目指す。 また、「親子漢字検定」「親子英語検定」を年1回実施する。	
取組内容②【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】		進捗状況
取組内容	[生徒の体力・運動能力向上のための取組の充実] 体力・運動能力向上のため、グループ活動を充実し、基礎的な知識及び技能の習得をはかる。目標設定を具体的に用紙に記入することで、生徒自身が各種目の記録から、自らの課題を解決していくよう学習を推進する。また、集団行動を徹底し、規範意識を高め、健康の保持・増進と体力の向上に必要な思考力・判断力・表現力の育成を図る。さらに、タブレット等のICTを活用し、授業展開の幅を広げる。生徒が運動やスポーツに楽しく参加できる体育的行事として、「水泳大会」や「体育大会」、「マラソン大会」や「球技大会」などの行事をコロナ感染状況に応じて推進する。また、生徒自らが積極的に運動やスポーツに取組みたくなるよう「トレーニングルーム」の施設を活用し、運動やスポーツに取組む機会を拡大することにより生徒の体力・運動能力の向上を図る。	B
指標	①体育授業が「楽しい」と答える生徒を80%以上にする。 ②実技において「技能習得ができた、わかった」と答える生徒を80%以上にする。 ③年間の体育的行事を3回以上実施し、運動に親しむ機会を作る。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容	[健康に関する現代的課題への対応] 感染症予防のため、家で過ごすことが多くなり、携帯で夜遅くまでゲームやSNSなどをしている生徒が増えている。そのため、十分な睡眠が取れず、起床が遅くなるなど、生活リズムが崩れる原因にもなっている。昨年に引き続き、保健委員による睡眠時間や衛生面などに関する保健調査を週2回継続的に行い、手洗い・うがい、消毒、マスク着用の徹底など感染症予防への呼びかけなどを委員会活動として活発化させる。また、月1回、ほけんだよりを発行して、生徒の健康への意識、関心を高める。	B
指標	月1回保健だよりを発行する。週2回の保健調査を年間を通して実施する。保健委員の取り組みに対する理解度を計る事後アンケートで肯定的に回答する生徒の割合を8割以上とする。	
取組内容	[食育の推進] 日々の昼食指導を行いながら、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようとする。各学年1回以上「食育」に関する取り組みを行う。月1回「食育だより」をHPに掲載し、廊下等に今日の献立を掲示することで栄養素や食材について生徒が興味を持てるようにする。各教科と連携し「食」の重要性を理解し、食について興味を持つよう食育を推進する。	B
指標	食に興味を持った生徒が全生徒の80%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [国語]

漢字の定着のために、全学年で週に1回以上の漢字テストを行っている。また、漢字の定着の確認に加えて、書くことへの苦手意識をなくすために、初読の感想や作文を書かせている。ICTや視覚的資料を活用し、学習への意欲向上に取り組んでいる。さらに、図書館を利用して調べ学習を行い、図書への興味付けを行うとともに、言語力の定着を図っている。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [社会]

1年生では、夏休み課題として自分の住んでる街のパンフレットづくりを課すなど、調べたことや考えしたことなどの表現力を伸ばす取り組みを行った。また、定期テスト等において社会的事象への思考・判断・表現に関する記述式の問題を必ず出題し、ワークシートや課題等で調べたことや考えたことを文章表記させた。長期休業中の課題提出の割合は現時点で80%以上にとどまっており90%以上は達成できていない。

2年生では、社会的事象への思考・判断・表現の指標を記述式の回答率で見取っている。1学期は81.6%だったのが2学期は84.8%に向上した。

3年生では、定期テスト等において社会的事象への思考・判断・表現に関する問題を必ず出題し、ワークシートや課題等で調べたことや考えたことを文章表記させた。長期休業中の課題提出の割合は概ね達成しているが80%以上の提出率で、現時点で90%以上は達成できていない

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [数学]

毎回の授業で復習問題や基本的な計算練習を行っている。そして、授業中や休み時間、放課後など様々な場面で個別対応の機会を増やすことができている。指標にしている、自分の力でできたと実感できる生徒を90%以上にするについては、テストごとにアンケートを取り、自分の力で解けた問題がある項目では、一学期期末テストで、1年生93%、2年生98%、3年生94%、2学期中間テストでは、1年生90%、2年生94%、3年生84%だった。やはり、範囲が進むにつれて苦しくなってくる。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [理科]

理科室を積極的に活用した授業を行っている。その際に課される実験プリントの提出率・完成率も概ね目標を達成できている。実験を通して興味関心をもつてすることは伺えるが、欠席者や長期欠席生徒も数に加えると、提出率等は下がってしまう。個に応じた授業の工夫にこれからも取り組んでいきたい。また、教科書のQRコードを活用したり、ICTの活用も積極的に取り組めた。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [音楽]

今年度も1学期は感染症対策として全学年でアルト笛の練習を行わなかったため、手拍子によるリズム演奏や指揮などの実技テストを行った。歌唱も2・3年生は人との間隔を取りながら合唱コンクールの練習に取り組んだ。別教室でのパート別練習やタブレットを用いて、音源を聴いたり、録音したものを聴いて、改善点を見つけるなど効率よく練習を行い、マスクをしながらではあったが、どのクラスもよく響く素晴らしい合唱に仕上がった。また、鑑賞中心の授業になっていた1年生では2学期以降、徐々に歌唱やアルト笛の練習を行っている。今後も対策を行なながら、なるべく授業に実技を取り入れ、自ら音楽を奏でる喜びを伝えていきたい。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [美術]

感染症対策の観点から、3年生の自画像の取り組みや1年生の班活動の制限はあったものの、制作進度は例年とほとんど変わらない状況。ただし、コロナ不安による欠席やワクチンの副反応による欠席で週一回の授業である美術は欠席が数回だけでも制作進度はかなり遅れてくる。その生徒の配慮をするにしても限界があり、授業に参加する生徒と同等の作品は仕上がりにくい状況である。今後は欠席が多くなっている生徒に対して細かな一人一人に応じた配慮を行っていきたい。授業に参加できている生徒の作品の進度は順調で、文化発表会に向けた展示も中途半端で終わってる生徒が少なく、作品制作に関しては問題なく例年と同じ進度で行なうことができている。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [技術家庭]

実習においては、より多くの作業時間確保のために、感染予防を考えながら、教材の工夫や、実習室や用具の整理・点検・準備を丁寧に行っている。そのため、昨年度より大幅な実習時間を確保することができている。また、知識や技能の定着のために、実習とリンクしたプリントでの基礎の確認と復讐を行っている。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [英語]

SDGsの取り組みとして、C-NETと協力し、自分の意見や考えをプレゼンテーションを通して伝える活動を行ったり、教科書の単元が終わった後にそのトピックについて自分の意見を書く活動をしたりするなど、自己表現ができるよう指導を行っている。
また、デジタル教科書を授業で効果的に活用している。
本文をピクチャーカードを使って読むことで視覚的に理解を助けたり、文法単元のイメージをつかむことができるようパワーポイントを用いた導入を行っている。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [学力向上を図るための学習支援の充実]

- 生徒一人ひとりの基礎学力の定着に向け、校長経営戦略予算を活用して学びサポーターについては、6名の方に週9回計33時間の配置をしている。
- 校長経営戦略支援予算を活用して、教科書ガイドの問題集や受験対策として参考書を自主学習室に備えて、学校元気アップ本部事業の方々の協力も得ながら、生徒が自主的に活用できる環境を整備した。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [図書室を活用した言語力の定着と向上]

団体休・放課後を使って週に8回図書室を開館している。団体休の来館者数は20名弱ほどである。文化発表会の資料としての図書の利用の機会があった。月に1回「図書だより」を発行し、補助員さんによって月ごとにテーマに沿った図書のコーナーを設けてもらったり、1年生文化委員によっておすすめの本の紹介のPOPを設置するなどして、図書室の活用の促進に努めている。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [放課後等を活用した自主学習支援]

学校元気アップ事業の活用により「土曜自主学習会」や「放課後自主学習室の開放」を7月末（1学期間）までに合わせて69回行い、延べ279名の生徒の参加があった。本年度は感染症対策の観点から学習会の開催を見合わせる時もある中、昨年度と変わらず参加人数が定着してきていることは、自主学習習慣の意識が醸成されつつあると感じている。また、8月に実施した「漢字検定」には32名、10月に実施した「英語検定」には80名（両検定とも本校生徒のみ）の参加があった。両検定への参加者は年々増加し、定着してきている。特に上位級の受検者数が増加している。

【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】 [生徒の体力・運動能力向上のための取組の充実]

保健体育科の夏休みの取り組みとして、東京オリンピックを観戦し、そこでの学びや気づき、調べたことや感想などを中心にして、オリンピックレポートを作成した。その作成を各自のタブレットを使い、オンライン上で提出させた。また、それだけにとどまることなく、そのレポートを題材に各自発表を行い、発表者に対して評価もした。保健体育としてICTを取り入れた新たな取り組みを行うことができた。授業ではグループ活動を積極的に行い、自分たちで支持を出し合える仕組みづくりをし、リーダー育成に努めている。また、各種目で学習カードを作成し、自分の記録を見ながら、自らの練習課題をクリアしていく授業展開を行っている。

延期になりながらも体育大会を実施することができた。運動不足や時期がずれたことにより、熱中症の心配が懸念されたが、時間短縮や生徒席にテントを張るなどして対応した。

体育授業を工夫し、行事についてもできる限り行い、運動をすることが好きな生徒を増やし、体力向上につなげていきたい。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】 [健康に関する現代的課題への対応]

毎月「保健だより」を発行しその時期、その時代に合わせた健康に関する記事を載せることにより、健康に関する意識を高め健康維持の為に自分でできることを学ぶきっかけとしている。また各学級において保健委員が週2回、定期的に健康調査を実施し睡眠時間や朝食の喫食状態を調べることにより、正しい食事や睡眠時間の大切さを意識づけている。また、今年度も感染予防対策を重点的に行い、保健委員が中心になって給食中に手洗い・消毒・換気・黙食などを呼びかける放送を継続して実施している。

【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】 [食育の推進]

校内2か所に本日の献立を掲載し、栄養素や食材について生徒が知識を得られるようにしている。立ち止まって見ている生徒を多く見かけるので今後も継続していく。日々の昼食指導のなかで3年生保健委員が黙食を促す放送をし、望ましい食事マナーが見に付くように促している。給食の残食がまだまだ多いので、意識を促す指導が必要である。

年 度 末 へ の 改 善 点

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [国語]

漢字小テストの実施と、間違えたところの復習を繰り返させて定着を図る。また、感想文や意見文を積極的に書かせる。文章を書くことへの抵抗感をなくしていく。また、引き続きICTや視覚的教材を使い学習への意欲向上に取り組んでいく。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [社会]

資料を積極的に提示するなどして生徒の興味・関心を引くことができる授業づくりを行うとともに、課題の提出率を上げるために声掛けを積極的に行う。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [数学]

個別対応のさらなる強化。特に数学に苦手意識を持つ生徒に対して、1問でもできたと実感できる問題を増やしていきたい。小学校からの積み重ねの教科なので、中学校の内容のみがんばっても本当の理解にならない部分もあるが、丁寧にサポートし、自発的な学習意欲へとつなげていきたい。テストの点数のみを目標設定にするのも段階によっては良いとは限らない。ねらいを定めた問題は必ず正解する。そのような目標でも良いと思う。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [理科]

実験を引き続き行い、理科に対する関心や意欲を持てる授業を行う。また、計算などが苦手な生徒が多くみられるので補習を行うなどして学力の向上にも努めたい。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [音楽]

アルト笛は運指を覚えることが一番の課題であるが、できない時期が長くなると定着は難しい。1年生は両手を使った運指へのチャレンジを、2・3年生は運指を忘れている生徒も多くいるため、習った楽曲から復習を行い、運指を思い出すなど、楽しく器楽演奏するための基礎学習をしっかりと行っていきたい。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [美術]

制作進度に遅れが見られる生徒に関して、放課後等の事後指導の徹底をはかり、適切な配慮による事前指導も行っていきたい。加えて、コロナ不安による欠席やワクチンの副反応による欠席で、欠席回数が非常に多い生徒に関しては、個別対応をとるなど今年度の感染症の状況に合わせて配慮していきたい。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [技術家庭]

昨年度と比実習時間が多く取れていることもあるので、一つ一つの作業の連警を高めていき、より高い技術と知識の習得を図っていきたい。また全ての生徒の作品完成度も高いものとするために、作業が遅れている生徒には放課後補修を行うなどのフォローをしていく。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [英語]

学習した文法事項を使って行う言語活動の回数をより多くする。
また、引き続きICTを上手く活用し、生徒が実際の場面やシチュエーションを想像しながら学習に取り組めるようにする。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [学力向上を図るための学習支援の充実]

自主学習室の利用数は安定はしているが、未だ利用していない生徒もたくさんいる。この現状を踏まえ、今後は開館情報などを生徒に周知できるよう工夫していく。また、未利用の原因が感染症への不安等などの理由の場合は、感染症対策を十分に講じて不安解消できるようにしたい。

年 度 末 へ の 改 善 点

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [図書室を活用した言語力の定着と向上]

感染症対策を講じながら開館を続けてきており、今後もなるべく開館日を多く設けて読書に親しむ機会を提供していく。書架の配列の工夫や貸出数が増えるような取り組みを継続していく。

【施策4 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取り組み】 [放課後等を活用した自主学習支援]

自主学習教室の開館案内や土曜自主学習会の実施案内などを生徒全体になお一層周知し、自主学習室の利用を自らが率先して利用できるよう取り組む。また、感染症対策の観点から、安全で安心して利用できるようになお一層対応していく。

【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】 [生徒の体力・運動能力向上のための取組の充実]

今後も感染予防に気を付けながら、工夫を重ねて授業を展開していく。また、体育好きな生徒が少しでも増えるような仕組みづくりを、教科会を通して、体育科全体で工夫していく。
体育的な行事についても、協議を重ねながらできる限り実施していく。

【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】 [健康に関する現代的課題への対応]

今後も保健だよりの発行、保健委員による健康調査は今後も引き続き実施し、調査の集計結果からクラスや学年に現状を呼びかけ、改善を図らせたい。また委員による目標掲示や健康に関するポスターからコロナやインフルエンザの感染予防への意識を高めていく。今後も引き続き、手洗いやアルコール消毒・換気など、感染拡大を予防する対策を学校全体で取り組んでいきたい。

【施策5 健康や体力を保持増進する力の育成】 [食育の推進]

1年生は3学期に小学校の栄養士が来校し、2年生は計画中、3年生は10月20日に「バランスのとれた食事」の食育授業を行う予定である。また、各教科と連携し、「食」の重要性を理解し、「食」について興味を持てるよう食育を推進していく。

大阪市立新東淀中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年 度 目 標	達成状況
【その他】（再掲）	
○2月の小学6年生アンケートで、「小中連携の取り組みで4月から始まる中学校生活の参考になりましたか？」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。	B
○令和3年度末の校内調査において、「先生は、教え方を工夫している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】	
[小中一貫教育の充実]	
取組内容 中学校進学への不安軽減や、小・中学校の教職員の協力した教育課程による学力向上をめざし、本校の「小中連携アクションプラン」に基づく小中合同研修会の開催・公開授業などの小中一貫した取組を推進する。	B
指標 2月の小学6年生アンケートで、「小中連携の取り組みで4月から始まる中学校生活の参考になりましたか？」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。	
[若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実]	
取組内容 メンターの活用を通して組織的な若手教員の育成に取り組みについて教員相互の学び合いにつながる校内ミーティングや高校回りなど、メンターの活動を各学期に2回以上実施する。また、全教員が年間1回以上の授業研究・相互参観を伴う校内研修を実施するとともにワークショップ型の研究協議をはじめ、教員相互の学び合いにつながる校内研修を実施する。	B
指標 研究協議後のアンケートで、「若手教員の指導力や授業力向上への意識が、メンター研修や校内授業研修週間を通して高まった」と肯定的な回答の割合を87%以上とする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】 [小中一貫教育の充実]
全体会・分科会をおこなうことができていない。また、中学校に旧小6の先生方に来ていただいて、授業参観・情報交換をおこなうこともできていない。10月になって緊急事態宣言があけたことで、小学校へ連絡をいれて日程調整をしているところである。現在取り組むことができているのは、本校の公開授業で授業見学をしていただいたことである。今後の予定としては、「部活動体験」「中学校についての講話（12/3・12/6・12/22）」「文化発表会などの映像を利用しての芸術鑑賞」「小学校の全校集会での講話（10/25）」を予定している。
【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】 [若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実]
1学期と2学期に1度ずつメンター研修を実施した。1学期の研修では、学級経営の仕方や授業づくりを中心にそれぞれの悩みや意見交流を行うことで若手教員の不安を軽減することができた。2学期のメンター研修では、OJTの先生にも入っていただき、「1学期の反省点と2学期に向けて」というテーマで意見交流を行い、若手教員の意識を向上することができた。 校内研修学力向上の取り組みとして、今年度の状況からできる範囲での、公開授業、研究授業、研究協議会を目標通り執り行うことができた。授業研修週間にについてアンケートを実施した結果、良くなかったという意見がなく、公開授業、研究授業を通して、授業をする側見る側双方にとって、授業力向上への意識を高める良い機会になったと考える。

年 度 末 へ の 改 善 点

【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】 [小中一貫教育の充実]

教務主任間での連携を密にとり、実施できるときに日程を速やかに調整していく必要がある。

【施策6 施策を実現するための仕組みの推進】 [若手教員の指導力向上と授業研究を伴う校内研修の充実]

メンター研修を定期的に行い、活発な意見交流をすることで若手教員の指導力向上につなげていく必要がある。校内研修の実践報告や、アンケートの集計結果をもとに、次年度以降の研修に繋げていこう。